

# みんなの広場

## 町コミュニティバス『波多津ふれあい号』の学童便運行開始 波多津の子どもたちを地域で守る

少子化の影響で集団登下校が難しくなる中、波多津町まちづくり運営協議会とNPO法人まちづくり波多津の協力のもと、町コミュニティバス学童便（朝の便）が始業式の日から運行を開始しました。スクールバスの対象とならない、通学距離が4km未満の児童が登校時間に乘ることができ、地域主導で安全・安心な通学環境を確保します。



↑ 運行開始した波多津ふれあい号の学童便で通学する波多津小学校の児童たち

## 学校サポーターとの凧作り 昔遊びで笑顔いっぱい

黒川小学校の2年生が、地域の学校サポーターである境英昭さんの指導のもと、凧作りに挑戦しました。これは、日本古来の伝統を引き継ぎ、子どもたちにその楽しさを味わってもらうことを目的に行われています。子どもたちは、思い思いの絵を描いた凧を完成させた後、より空高くまで揚げようと楽しそうに運動場を駆け回りました。



↑ 境さん（左から3人目）に教わりながら、あらかじめ絵を描いたシートに竹ひごやひもを貼り付ける児童

## 市民会館大ホール『緞帳』を写真パネルにして展示 地域の資源として後世に残すために

市民会館大ホールの『緞帳』は、トンテントンの合戦風景が描かれていて、会館が建設された当時から、市民に親しまれてきました。市民会館を解体するとき、関係する皆さんから要望があり、写真パネルを作成し、地域資源として残すことにしました。パネルは伊万里駅東ビル（JR側）1階のエントランスホールに設置しています。



↑ 市民会館建設当時の美しさがよみがえった大ホール緞帳の写真パネル

## カブトガニ幼生飼育校への幼生引き渡し 楽しみながら育ててほしい

伊万里高校理化・生物部が牧島小学校6年生に、カブトガニの幼生約100匹を引き渡し、飼育方法の指導を行いました。これは、カブトガニの生息数の増加を図るとともに、郷土の文化財を守る豊かな心を育てることを目的としています。児童たちは餌やりや水温の管理などを行って大切に育て、7月下旬に多々良海岸（瀬戸町）に放流する予定です。



↑ 「大切に育てて」と高校生から幼生を受け取り、「立派に育つように頑張ります」と意気込みを語る児童たち

市指定天然記念物『タイワンツバメシジミ』のパネル展  
『幻のチョウ』を知ってほしい

南波多町にある大野岳山頂には、絶滅危惧ⅠB類のチョウ『タイワンツバメシジミ』が生息しています。地元有志で結成された大野岳タイワンツバメシジミ保存会が、市役所のロビーで、生態を記録したパネルの展示や保護活動を伝える映像を流して幻のチョウを紹介し、松本輝彦会長は「一人でも多くの市民に知ってほしい」と話しました。



タイワンツバメシジミの写真パネル【保存会撮影】



↑市民ロビーでは、保存会の松本会長（右から2人目）と会員が、訪れた市民にタイワンツバメシジミのことを説明

着地型観光アイデアコンテスト

『遊べるまち』、『行きたいまち』に

古伊万里通りのおひなさま実行委員会が、地域資源を生かした体験アイデアを募集し、58件の応募から選ばれた最優秀賞の贈呈式がありました。受賞した岩崎亮也さん（二里町東八谷搦）は、『「伊万里からの脱出」～リアル謎解きゲーム～』を考案。「伊万里の魅力を知ってほしいという思いで応募した。ぜひ、実現できれば」と話されました。



↑さまざまな分析を基に3つの謎解きゲームのコースを提案し、最優秀賞を受賞した岩崎さん（左）

伊万里っ子・キッズスポーツフェスティバル  
体を動かすって楽しい！

子どもたちにスポーツの楽しさに触れてもらうため、国見台球技場で伊万里っ子・キッズスポーツフェスティバルを開催しました。年少児から小学校3年生までの69人が参加し、ホッケーや陸上、サッカーで汗を流しました。公式ワナゲなどのニュースポーツ体験コーナーも設置し、子どもから大人まで、たくさんの人が笑顔で楽しみました。



勢いよく走ってゴールを目指すキッズサッカー



↑キッズランでは鬼ごっこやハードル走にチャレンジ  
↑ボールの運び方から教わるキッズホッケー

交通安全スプリングキャンペーン  
笑顔でつくる交通安全

市交通対策協議会は春の交通安全県民運動の一環として、伊万里ショッピングセンター駐車場で、買い物客など約200人に交通安全啓発チラシや反射材など啓発グッズを配布しました。キャンペーンに参加した牧島地区交通対策協議会の諸石秀子さんは、「交通ルールに気を配り、子どもたちを交通事故から守りましょう」と呼びかけました。



↑訪れた親子に啓発グッズを手渡して交通安全を呼びかける牧島地区交通対策協議会の諸石さん（右から1人目）